

ハイブリッド授業説明会

国際商学部 河瀬宏則

本説明会の目的

- ハイブリッド授業を成立させるためには？
 - おもに基礎ゼミを前提とします
 - 説明会会場の設定は、30名受講で102教室（36名教室）
- 用語の共有
 - ハイブリッド授業：教室学生とオンライン学生が混在する形式の授業
 - 教室学生：教室で受講する学生
 - オンライン学生：Zoomを使ってオンラインで受講する学生

ハイブリッド授業を成立させる要件

- 教室学生とオンライン学生のコミュニケーション
 - 視覚的に
 - 相手の顔が見える
 - チャットを使ってやり取りができる
 - 聴覚的に
 - 相手の声が聞こえる
 - 相手に声を伝えられる

ハイブリッド授業の最低限

- 全員の声が（かろうじて）聞こえる
- 全員の顔は見えない
 - オンライン学生の顔はスクリーンに投影されている
 - 教室学生の顔はホワイトボード付近に行けば見える

ハイブリッド授業の1st best

- 全員の顔が見える
 - 教室学生がノートパソコンを持ち込み、Zoomに接続させる
 - 各学生に電源タップが行き渡るように
 - ビデオON音声OFF
 - 予想されるハードル
 - ネット回線が耐えられるか？
 - 全員のPC用の電源を用意できるか？
 - そもそも学生全員がZoom利用に適したノートPCを持っているのか？
- 全員の声が聞こえる
 - マイクを教室にいくつか配置
- 全員がチャットを通じて意思伝達できる
 - Zoomに接続している必要がある

大学から借りられる機材

- マイク（ヤマハYVC-330）
 - 全方向仕様：教室の中心に設置する
 - 隅のほうは聞こえにくい可能性あり
- Webカメラ（サンワサプライCMS-V43BK）
 - 広角レンズ
- Webカメラ用の三脚

その他必要そうな機材（各自持参）

- USB延長ケーブル
 - マイクやカメラの位置の自由度を引き上げるため
- HDMI⇔VGA変換ケーブル
 - 本館教室ではVGAの接続端子のみとなります
- USBハブ
 - マイク、カメラで2箇所埋まります
 - 液晶タブレット等利用する場合など

教室の環境

- 座席：36席
 - 3列目から使用すること
 - 各教室の座席レイアウトは文科省の基準に応じた座席配置
 - 使用後は必ず原状復帰のこと
- 教室設備によって可能なことは変わります
 - マイクの入り方
 - 板書が利用可能かどうか

様々な授業スタイル

- 板書
 - この教室では実施不可
 - 代替案として、共有機能のホワイトボード等でスクリーンに投影
 - 液タブやiPadなどを使用すればOK
- 授業内グループワーク（密を回避しつつ）
 - グループワークメンバー全員がZoomに入室
 - ブレークアウトルーム機能を利用

様々な授業スタイル

- プレゼミA、2020年度前期、河瀬担当の取り組み
 - 英語テキストの輪読
 - 3人1チームのグループワーク
 - グループの役割：発表者、レポート執筆者、討論者
 - 授業内での取り組み
 - 発表者が英語資料でプレゼン、別チームの討論者が日本語資料で要約説明&質問
 - フロアはチャットで質問、教員は補足説明など
 - 授業外での取り組み
 - Zoomでグループワーク：担当箇所の内容の読み合わせ、発表内容の確認、相手チームの発表内容の検討、教科書の追加事例の検討

様々な授業スタイル

- 基礎ゼミ、2019年度後期、河瀬担当の取り組み
 - 株価に影響するイベントを取り上げ、ケーススタディ
 - 異常リターンの計算とその解釈
 - 1授業あたり5人発表、フロアから質問
 - フロアは発表中、イベントに対する情報収集も行う
- 今年バージョン
 - 教室学生は口頭で質問
 - オンライン学生はチャット/口頭で質問
 - 3人1チームのGW発表

様々な授業スタイル

- ぜひご意見いただければ